

令和4年度 事業報告書

第1 はじめに

葵橋ファミリー・クリニックは、個人の精神的健康を援助する統合的援助機関である。

個人の精神的健康を維持することは、健康な社会を維持することにつながる。その観点から精神的問題を抱える個人・家族に対してカウンセリングを中心とした対人援助活動を行っている。個人にのみ焦点を当てるのではなく、個人と個人を取り巻く家族・社会環境も視野に入れた大きな枠組みでカウンセリングを捉え、また当法人の取り組みで得た知見をさまざまな形で社会に還元する事が、個人と社会がともに健康であり続ける事に繋がる。この目的のため、症状や問題を呈している個人に対するカウンセリングを行うだけでなく、家族の相談、親子や夫婦の並行面接や合同面接も行う。さらに、必要に応じて医師・学校関係・弁護士・保健センター・児童相談所・社会福祉機関等の地域援助機関と連携することで、個人に対する幅広い援助ができるようにしてきた。また他機関の諸要因で対応しきれない相談を受けるということが当法人に課されたものである。

また地域で実際に活動する対人援助の専門家を養成することで、地域社会への貢献を行い、また地域のなかでの相談しやすい相談機関を目指して地域活動を行ってきた。この基本方針に基づき、公益目的事業と収益目的事業が行われた。

今年度もコロナ禍に見舞われ、京都府にまん延防止等重点措置が発令された。面接形態も、Zoom によるオンライン面接、電話相談に切り替えて実施したものもある。コロナ対策として、館内の消毒を徹底し、検温、マスクの着用、消毒液の設置、面接室の椅子の配置を変更、アクリル板の設置、換気のために窓を開ける、また空気清浄機の設置等、できる限りの対策をとった。コロナに罹患したり、濃厚接触者になり面接がキャンセルされることもあったにも関わらず、来談者数も面接回数も昨年度より大きく増加している。社会の不安定さに比例して、精神的に不安感が増大しカウンセリングに対する需要は高まったと考えられる。

今年度は京都府から「女性活躍支援ワンストップ拠点推進事業」の委託を受け、京都府に在住・在勤の困難・課題を抱える女性に対する無料カウンセリングも実施した。

以下、本年度の事業内容を報告する。

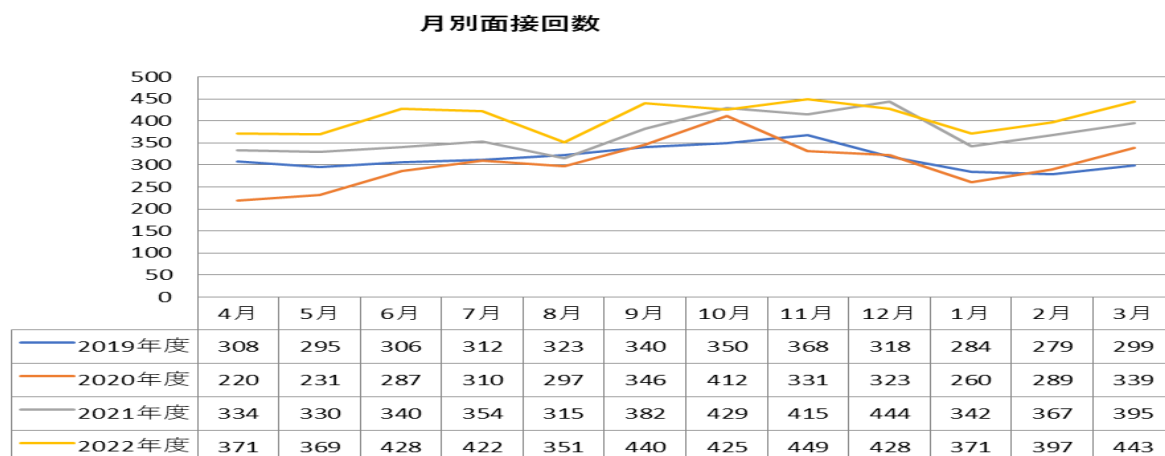
全事業の来談者数と面接回数は以下の通りである。

〔表1〕

	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
公益1	357	343	428	477	2714	2570	3414	3744
公益2	111	97	107	85	889	799	824	728
収益	44	52	36	64	228	276	209	422
合計	512	492	571	626	3831	3645	4447	4894

・公益2は、個人スーパーヴィジョン・教育分析等を分類している。

〔図1〕



第2 公益目的事業

I. 公益事業 相談事業

《社会的問題に対応する心の問題、精神的な健康をカウンセリングにより援助する事業》

現在の社会の中で、特に問題になってきている6つの問題について法人としての目的を達成するために当法人の援助システム（個人のカウンセリングを行うとともに、他の援助機関と相互連携し、有機的な対人援助を行い、さらにそこから得た知見を社会に還元していく）を機能させたカウンセリングを実施した。（1）精神的症状（職場におけるハラスメントを除くメンタルヘルス問題を含む）、（2）教育問題、（3）虐待、（4）DV（ドメスティック・バイオレンス）、（5）ハラスメント、（6）犯罪被害者支援及び加害者更生支援である。

今年度の統計を見ると、（3）虐待を除いてすべて増加している。

新規来談者数はすべて増加している。特に（6）犯罪被害者支援及び加害者更生支援は40%の増加である。

総面接回数も呼応して10%増加している。月別に見ても今年度はコロナの発生状況に呼応しての増減は顕著には見られず、コロナ禍の中で精神的健康を支えるカウンセリングは必要とされていると考えられる。

継続・終結ケースが96%である事はどの面接も一定の面接効果が見られたものと考えられる。これはここ数年変化がない。

紹介経路としては、社会機関（被害者支援センター、弁護士等）、教育機関や医療機関からの紹介が多く、他機関からの紹介は全体の7割を超えるようになってきた。これは当機関が社会のニーズに応えられるカウンセリング機関として認知されているといえよう。特にここ数年は公的相談機関・弁護士・犯罪被害者支援センターといった社会機関が医療機関を上回るようになって来ており、さらに増加傾向にある。また教育関係機関からの紹介も増加している。

面接料金についても委託料金が30%を占め、減免料金も5%になっている。公益法人としての役割を果たすためにも減免料金をさらに増やすべく財政基盤を整えることが必要である。

また、（1）の精神的症状と（2）の教育問題、（6）犯罪被害者支援及び加害者更生支援は継続来談が多いが、これらは家族関係の問題をはじめとして背後にある学校や社会の複雑な問題も見据え、さらに社会復帰していくために環境調整も必要なケースが多く、長い支援が必要な領域である。相談機関として安定したカウンセリングを受けられる当法人は、複雑な社会で日常生活を送るうえで、健康な市民生活を支える役目を果たしていると考えられる。

こうした役割を果たしていくためには、実際の各面接の評価測定方法を確立していく課題は残っている。

ただ、カウンセリングと言う作業は客観的な評価測定方法は難しい。各カウンセラーは面接の中で、見立てを行い、面接目標を設定して目標達成のための面接に取り組み、絶えず効果測定を考えている。このことは中断ケースの少なさに、結果として表れていると考えられる。

当法人の一番の目的は、他のカウンセリング機関とは違い、他機関との連携を密にして、来談者のニーズに応えていくことであり、また他機関との相互連携をすることで、援助の網の目を密にしていくことである。現状として他機関からは多くのケースが紹介されて来ており、他機関とのやり取りはかなり密にとれており、社会的にも認識されている。法人としての目的は達成できていると考えられる。

来談者の年齢的内訳をみると、30~50代が全体の約7割を占め、年齢層のピークが後方にずれているのがわかる。経済的基盤の乏しい若年層への減免制度はAFCの一つの課題であり、そのための財政基盤を整えることは急務である。

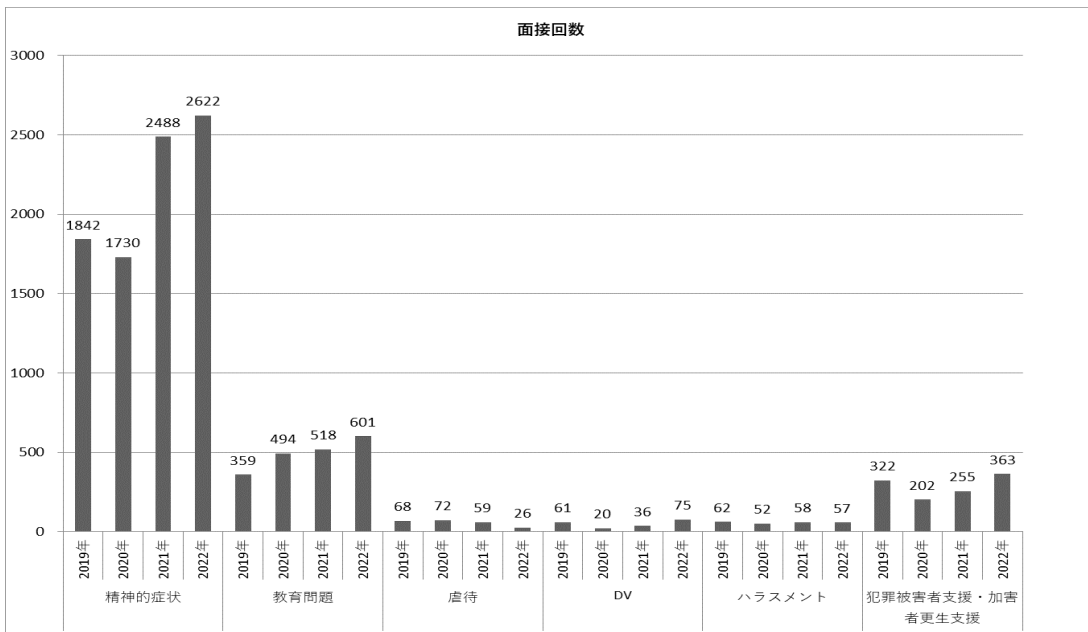
来談者数の男女比によると、例年通り女性が男性に比べて多い。これは女性の方が他者との対話を通して内省することに抵抗が少ないと考えられる。また子どもや家庭にまつわる問題を女性が引き受ける現状が社会的背景にあるのではないかと。今年度も、京都府の「女性支援」の影響で女性が増加している。

この事業の全体の来談者数と面接回数は以下の通りである。

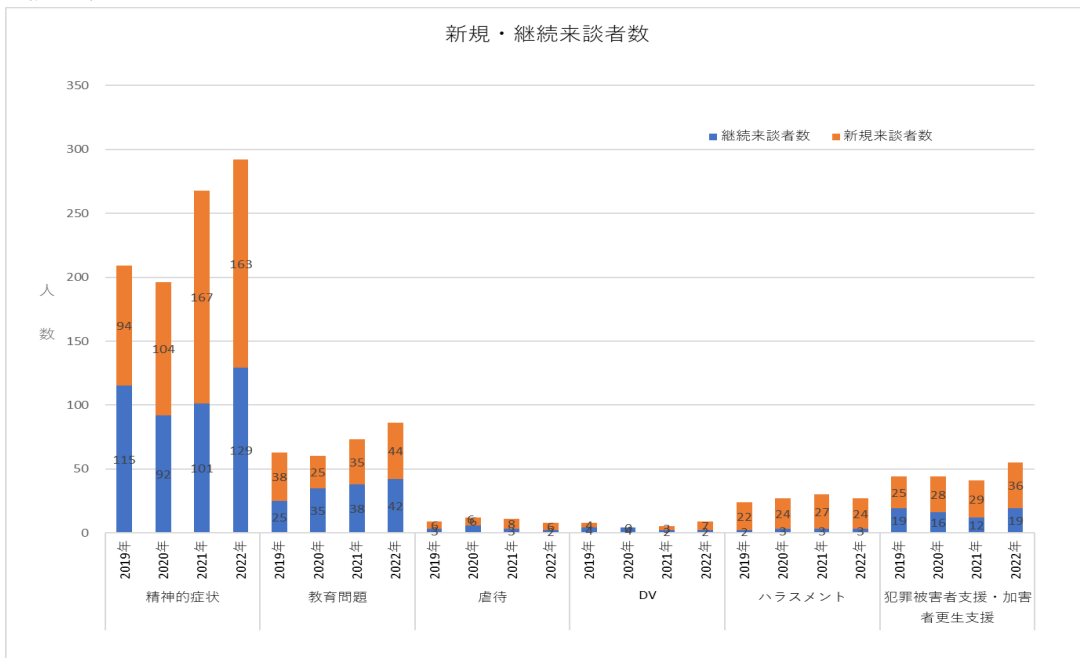
〔表 2〕

	(1)				(2)				(3)				(4)				(5)				(6)							
	精神の症状				教育問題				虐待				DV				ハラスメント				犯罪被害者支援 加害者更生支援				合計			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
来談者数	209	196	268	292	63	60	73	86	9	12	11	8	8	4	5	9	24	27	30	27	44	44	41	55	357	343	428	477
内 男性	68	71	86	78	18	17	23	21	2	2	2	3	2	2	1	1	11	12	9	6	22	21	17	19	123	125	138	128
内 女性	141	125	182	214	45	43	50	65	7	10	9	5	6	2	4	8	13	15	21	21	22	23	24	36	234	218	290	349
継続来談者数	115	92	101	129	25	35	38	42	3	6	3	2	4	4	2	2	2	3	3	3	19	16	12	19	168	156	159	197
新規来談者数	94	104	167	163	38	25	35	44	6	6	8	6	4	0	3	7	22	24	27	24	25	28	29	36	189	187	269	280
内 再開	10	3	6	9	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	11	4	8	10
面接回数	1842	1730	2488	2622	359	494	518	601	68	72	59	26	61	20	36	75	62	52	58	57	322	202	255	363	2714	2570	3414	3744

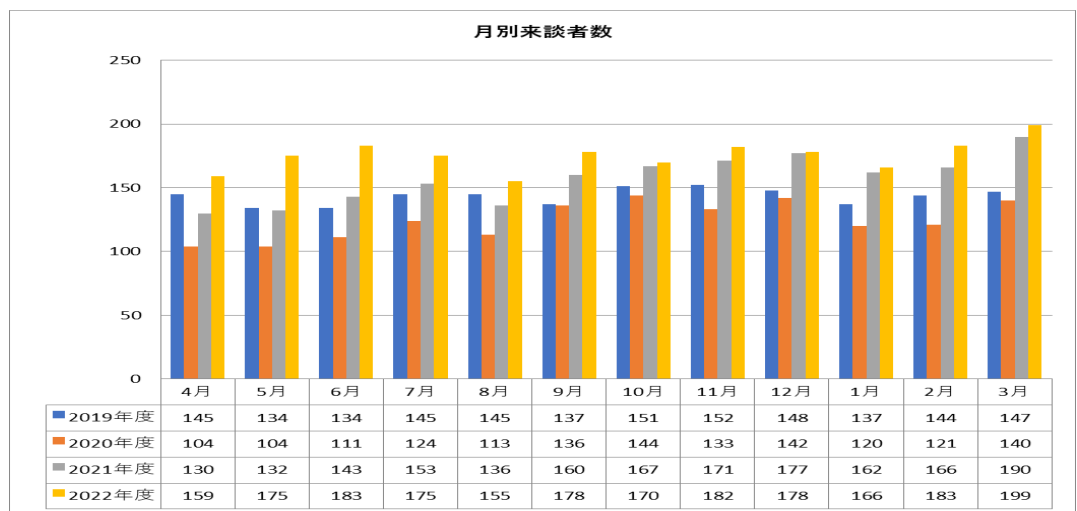
〔図 2〕



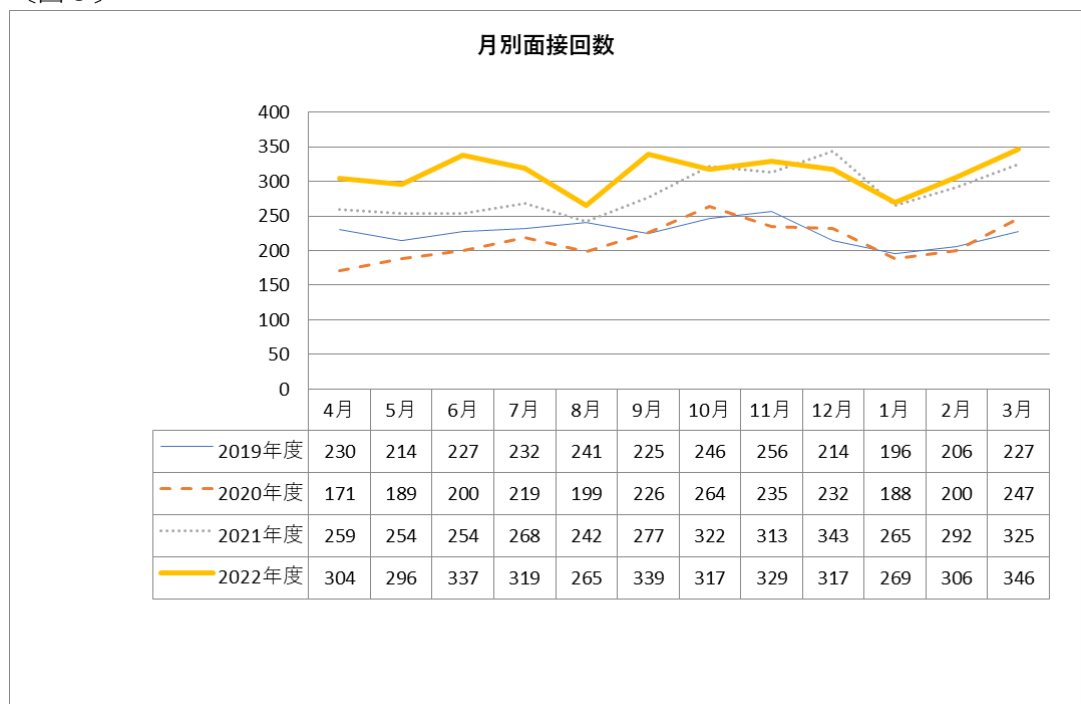
〔図 3〕



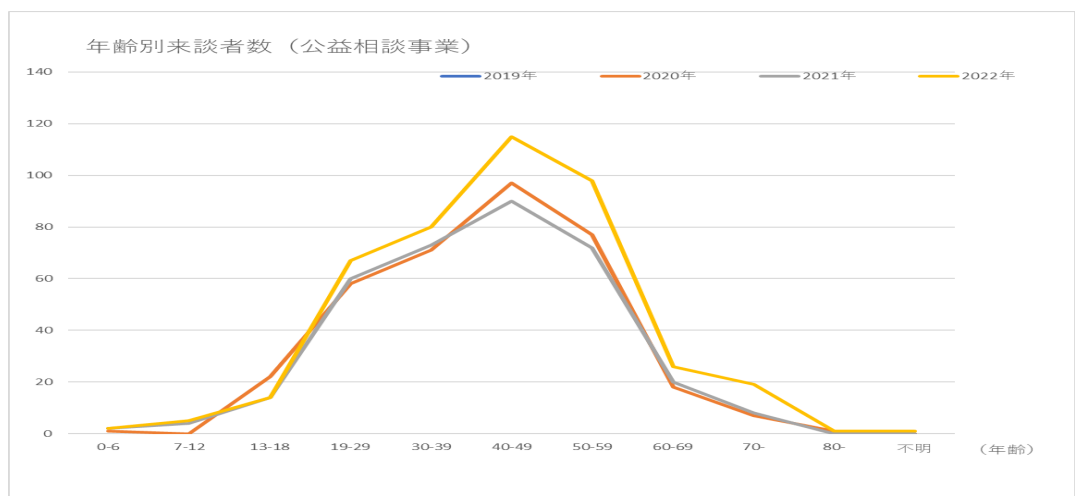
〔図 4〕



〔図5〕



〔図6〕



（1）精神的症状（鬱等の精神疾患、自死予防を含む、メンタルヘルスを含む）

今年度も複雑化する社会状況、家族の在り方の変化、ストレスの増大を背景にして増加している。精神的症状を呈する人に対して実施しているカウンセリングはまた精神的症状が重篤化して自死に至ることを予防する「自死予防」の一助を担っている。

現在の単一の精神的症状だけでなく、家族の問題や就労問題、過去のトラウマ体験など複数の問題が絡み合っており現在の精神的症状として現れている方も多い。病院や他の支援機関と併せてカウンセリングを活用するケースが多く、支援のネットワーク全体を意識しながら、カウンセリング面接を実施するだけでなく、クライアントがその支援ネットワークを有効に活用できるようサポートし、必要に応じ他機関と連携を取っている。

この事業は精神科から紹介されて来談するケースが多く、また当機関から医療機関受診を勧める場合もあり、ケースによっては綿密に主治医と連絡を取り合い、カウンセリングを進めていくことが必要である。書面や電話による情報共有を行っているケースがほとんどである。また、その他、社会福祉領域で就労する職員のメンタルヘルス相談も多く、社会福祉領域は、職場特性とともに、対人援助職に伴う精神的な負担が多い職種と考えられる。

機関として、精神科医、あるいは他の支援機関(保健センター・企業内メンタルヘルス相談室・発達障害者支援センター等)と有意義な支援が出来るように連携を行っている。

今年度は、発達上の問題がかなり増加しており、心理テスト施行も増えている。これは「発達障害」が社会の中でも取り上げられ、「発達障害」という見方が頻繁になされるようになったためと思われる。不安状態、適応障害も増加しており、社会全体の不安感、社会への適応のしにくさが増大しているためと考えられる。親子関係、夫婦関係も増加しているが、京都府の「女性支援」事業の相談の主訴が該当するものが多い。

〔表3〕

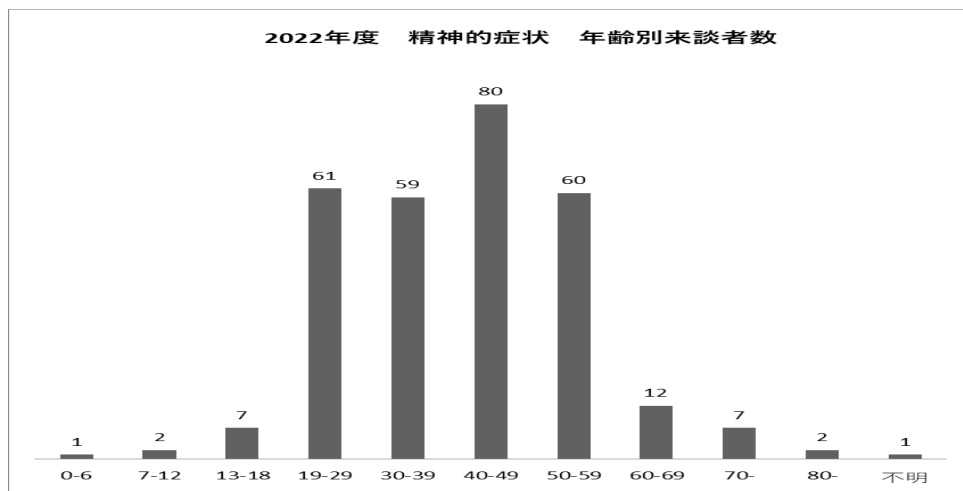
相談内容内訳		来談者数				面接回数			
		2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
統合失調症	AF1	2	3	8	7	22	18	47	57
鬱、双極性障害	AF2	24	21	18	13	176	260	236	142
鬱状態、躁状態	AF3	24	26	27	33	257	167	289	226
不安障害(パニック障害含む)	AF4	33	27	33	29	268	317	375	404
恐怖症	AF5	8	5	3	3	100	53	42	29
強迫性障害	AF6	2	5	10	8	41	37	98	91
解離性(転換性)障害	AF7	3	3	1	3	26	4	8	28
身体表現性障害	AF8	2	6	3	4	29	55	68	29
PTSD・適応障害	AF9	2	1	4	16	37	49	71	179
摂食障害	AF10	1	0	2	6	1	0	12	72
人格障害	AF11	9	8	9	7	141	102	163	102
性・心理機能の問題(同性愛・性同一性障害含む)	AF12	2	0	1	1	15	0	22	47
嗜癖(薬物、アルコール、ギャンブル、性的等)	AF13	7	4	7	5	92	82	41	33
発達上の問題(ASD,ADHD等)	AF14	9	5	4	6	42	34	10	109
行動の障害	AF15	0	0	0	1	0	0	0	5
その他精神的症状		0	0	4	4	0	0	54	51
精神障害者家族への援助	※1	8	10	15	9	36	44	78	64
職場における問題	※2	24	14	30	25	109	98	176	171
青年期の問題(進路・適性など)	※3	3	3	7	6	51	34	77	97
中年期の問題	※4	0	2	5	5	0	23	28	55
老年期の問題	※5	0	1	3	2	0	8	28	19
親子関係の問題	※6	15	9	22	18	155	83	213	205
夫婦関係の問題	※7	19	30	32	44	129	142	217	230
その他の人間関係の問題	※8	4	5	10	14	67	64	82	71
心理テスト		5	5	8	20	9	27	28	81
その他		3	3	2	3	39	29	25	25
合 計		209	196	268	292	1842	1730	2488	2622

・この分類は ICD-10 を元に AFC の相談実態に合わせて分類項目を設定している。(AF2～AF15)

- ・※１～※８は精神的症状とともに中核的な問題として人生の発達段階や家族の課題が顕著な相談内容となっている来談者の相談実態に合わせて分類項目を設定している。

年齢別来談者数を見ると、若年層から、高齢層まで幅広く来談されている。特に 10 代後半から 50 代という社会参加が求められる年齢が大半を占める。これは、社会や家庭など重層的にストレスが増加し、その結果精神的症状を呈し、カウンセリング援助が必要となるケースが多いためと考えられる。

〔図 7〕



（２）教育問題（子どもの問題）

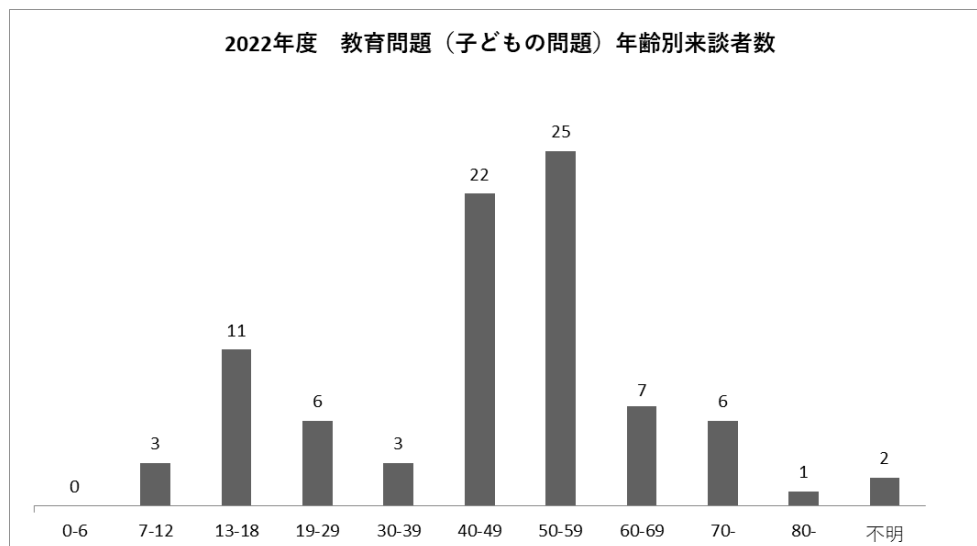
教育現場での「不登校」「いじめ」等の教育問題に対して、また子どもが呈する問題に対して実施しているカウンセリング。不登校の初期ケースや、不登校が長期化しているケース、学校で問題となる行動等、そのケースによってきめ細かい対応が必要な事業である。必要に応じて学校関係者との連絡を取り合いながら進めている事業である。各学校にはスクールカウンセラーやソーシャルワーカー等が配置されており、大学には学生相談室が設置されているが、学校という場そのものに行けない子ども、定期的にスクールカウンセラー等との面接が困難な場合、スクールカウンセラー等の面接では解決しない、また背景に発達障害や家族関係など複合的な問題がある等、関係機関の勧めで AFC に来所するケースがほとんどである。

前年度より増加している。特に「引きこもり」「子どもの問題を抱える保護者」が増加している。子ども自身の来所も増えており、プレイセラピーの実施や子どもへのカウンセリングも増えている。また子どもの問題に悩む保護者の相談が多い。AFC ではスクールカウンセリング等や公的な教育相談機関では対応しきれないケースや卒業年齢を過ぎても解決しきれない子どもの問題を抱えた保護者が多い。

〔表 4〕

相談内容内訳	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
不登校(いじめ)	13	11	14	13	85	128	184	135
発達上の問題(発達遅滞, 発達障害, 学習困難)	6	3	6	4	48	31	33	32
神経症的習癖(情緒問題)	3	1	1	3	7	43	13	23
非行	0	0	0	1	0	0	0	1
家庭内暴力	4	3	7	1	14	24	32	13
無気力(アパシー)	0	1	0	0	0	1	0	0
引きこもり	4	5	4	10	31	83	52	122
子どもの問題を抱える保護者	32	34	40	49	166	176	203	229
学校での問題(教師, 友人関係等)	1	2	1	5	8	8	1	46
合 計	63	60	73	86	359	494	518	601

〔図 8〕



（３）虐待

虐待を行ってしまった養育者へ、再発予防・家族再統合という目的で実施しているカウンセリング。また、被虐待児へのカウンセリング及びプレイセラピーも行っている。再発予防という観点から、虐待を行ってしまった養育者の深い心性まで扱うことが必要な事業である。

今年度は面接回数は大幅に減少している。社会での虐待に対する関心は高まっている中、AFC が果たす役割は虐待の再発予防と、児童相談所と協働しての「家族再生」に向けての動きである。地域での子育てへの支援、専門的支援は AFC の今後の課題であると言える。

〔表５〕

相談内容内訳	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
虐待親への支援・再発予防	6	7	8	6	58	60	54	16
虐待防止(子育て中の親への支援)	3	5	2	2	10	12	5	10
被虐待児への支援	0	0	1	0	0	0	8	0
合 計	9	12	11	8	68	72	67	26

被虐待児への支援面接回数は、合同ケースの虐待親への支援・再発予防にて計上する

（４）DV（ドメスティック・バイオレンス）

家庭内で行われる配偶者からの暴力、恋人間で行われる暴力について、被害者支援として実施しているカウンセリング。生活再建へ向けて各関係機関との調整が必要な事業である。今年度も面接回数は増加している。また再発予防、家族再統合に向けて加害者に対しても再教育カウンセリング（自分の言動が DV であるとの認識を持ち、その行動の心理・社会的背景を理解する等）を実施しているが、今年度も実施されていない。

〔表６〕

相談内容内訳	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
DV被害者	9	4	4	9	61	20	36	75
DV加害者	0	0	0	0	0	0	0	0
DV関係者	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	9	4	4	9	61	20	36	75

（５）ハラスメント（セクシャルハラスメント・パワーハラスメント・アカデミックハラスメント・マタニティハラスメント）

社会関係の中で行われるハラスメント問題について、被害者及び関係者に対して実施しているカウンセリング。ハラスメント問題の解決に向けて関係機関と綿密に連絡を取り合うことが必要であり、環境調整へ向けて方向性を協議する実際の援助である。機密性を重視した責任ある書類作成等、かなりの時間と労力を要する。今年度は来談者数、面接回数ともに大幅な変化はない。

〔表 7〕

相談内容内訳	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
ハラスメント被害者	22	25	28	23	60	50	53	45
ハラスメント加害者	0	0	0	2	0	0	0	3
ハラスメント関係者	2	2	2	2	2	2	5	9
合 計	24	27	30	27	62	52	58	57

（6）犯罪被害者支援及び加害者更生支援

犯罪により深く傷ついてしまった犯罪被害者及び被害者家族に対して実施しているカウンセリング。今年度は面接回数は大幅に増加している。これは、一つのケースに対して丁寧に面接が出来ていると言える。また犯罪加害者の再発防止のためのカウンセリングは加害者の再発防止のために、犯罪行為を犯してしまった加害者の心性を加害者自身が洞察し、抑止力を身に着けるという事を目指したカウンセリングである。今年度は面接回数は増加している。加害者更生支援は弁護士・警察からの紹介が多く、面接を実施し、効果（再犯に至っていない）が見られているものが大半である。この事業は、紹介元である弁護士・警察と連携し、紹介の意図を確認し面接を始めている。処遇が決定された後にも、面接は継続されている。

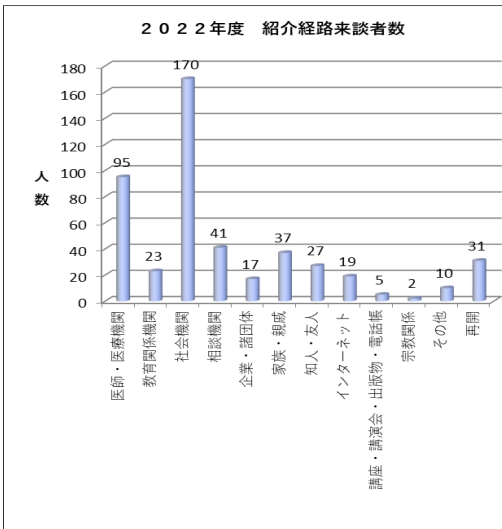
また、平成 29 年度の 11 月から、京都府警察本部から「ストーカー加害者に対するカウンセリング事業」の委託を受け、ストーカー加害者へのカウンセリングを実施している。

〔表 8〕

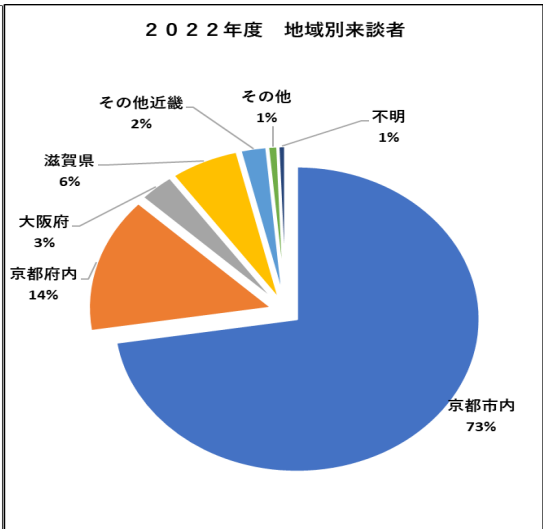
相談内容内訳	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
犯罪被害者・被害者家族	21	20	21	38	105	87	135	227
犯罪加害者の再発予防	20	22	17	17	204	104	115	136
加害者家族への支援	3	2	3	0	13	11	5	0
合 計	44	44	41	55	322	202	255	363

【令和 4 年度公益相談事業の来談者統計】

〔図 9〕



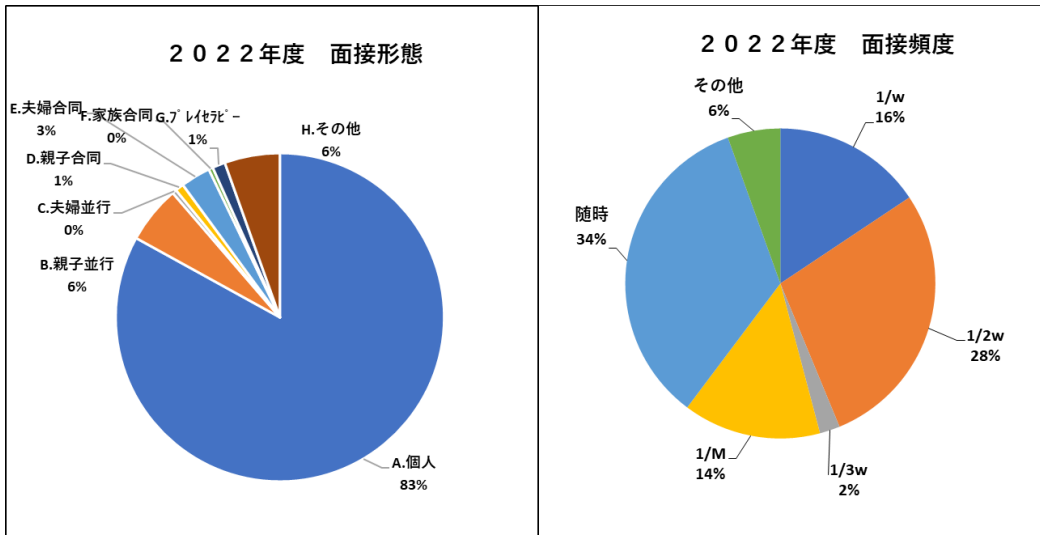
〔図 10〕



*社会機関＝公的社会機関、弁護士事務所等

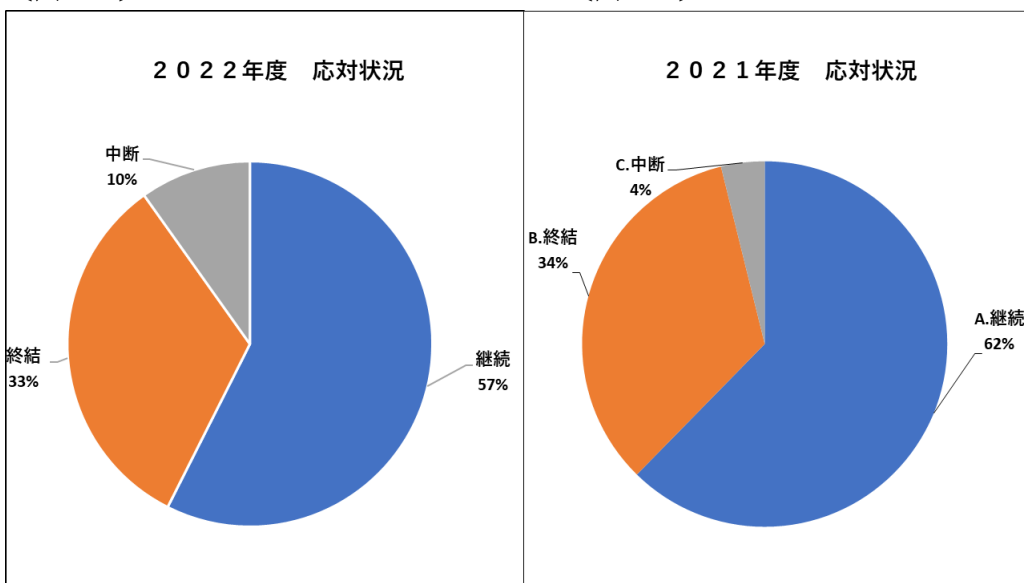
〔図 11〕

〔図 12〕



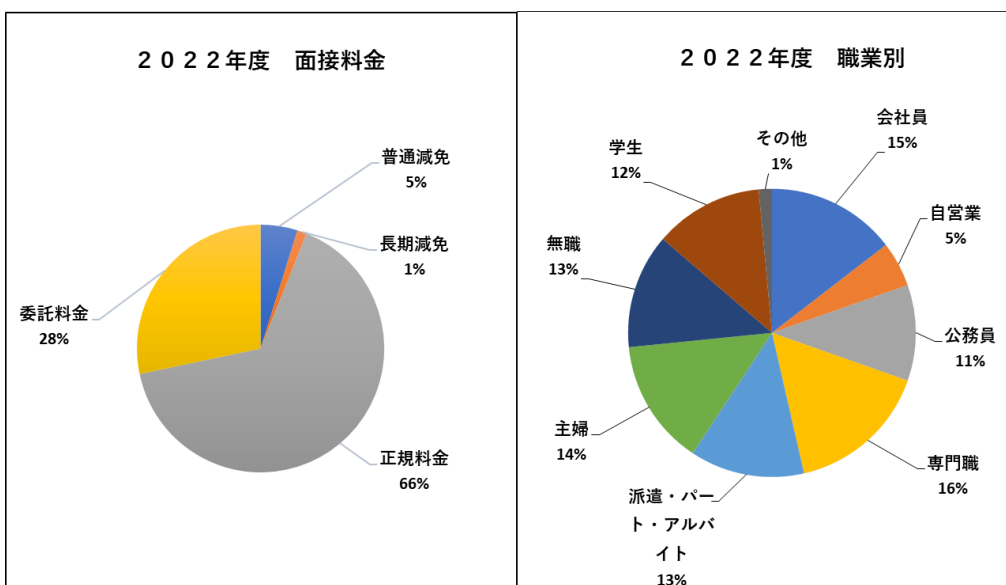
〔図13〕

〔図14〕



〔図15〕

〔図16〕



Ⅱ 公益事業 研修事業

《対人援助活動のための研修、人材育成及び講師派遣等事業》

令和3（2021）年度の研修事業として、以下の9の講座を企画した。今年度は聖公会の研修室が使用できなくなったため、すべての研修はハートピア京都で行った。今年度もコロナの影響で安全面で工夫しながら定員を少なくしてのワークショップ形式で実施せざるを得なかった。今年度も、継続的に実施している検査法についての講座を開講した。特に修得が難しいといわれている、ウェクスラー式検査とロールシャッハ・テストは基礎と事例編（応用講座）を実施し、バウムテストについては、講師の持ち味を生かした講座を開講した。さらに昨年度に引き続き心理臨床で大切な「見立て」についても専門講座として開催した。複数受講者、継続受講者もかなりあり、臨床家にとっては有意義な研修となっている。

aの対人援助のための基礎講座は、自分の身体を使って自分自身を深く見つめることと同時に自分の他者や社会との関わり方を見つめる方法としての「気功」を体験してもらう講座である。

またb-①の「みたて」は前年度から引き続き、心理臨床では基礎であるケースの「見立て」を専門的に学べる講座を開催した。b-⑦のグループ・スーパーヴィジョンは、講師の体調不良により中止とした。b-⑧の「ソーシャルワーカーのための専門講座」は受講者が集まらず中止とした。現場のニーズに合った講座を企画する必要性を感じた。dの教育講座は今年度も鏡リュウジ先生の講座で第6弾として『夢分析と占星術』を開催した。臨床の現場で重要な素材である夢をどうとらえるか？古代からの夢のとらえ方について占星術を基本として解説し、心理臨床家である濱野清志講師との対談により心理臨床の場でどのように夢を扱っていくか？考える機会になった。ZOOMと対面を組み合わせたハイブリッド型の研修会とし、遠方からも多く参加され、一般の方々も臨床家にも興味を持てる研修であった。研修事業は昨今多くの他の機関でも提供されるようになって来ているが、単発のものが多く、AFCの専門講座は、どの講座も専門家のニーズに応え、専門性を高められるように継続して行われているものである。参加者からは、臨床実践について幅広く深く学べるとの声をいただいている。（アンケート結果：図17）

スーパーヴィジョン、個人コンサルテーション、教育分析では、大学院臨床心理士養成課程の院生、有資格者の専門家等の個人スーパーヴィジョン、教育分析が行われた。この事業は相談事業で得た知見を、今後の対人援助の人材育成に還元していくという目的で実施されたものであり、かなりこの目的は達成されている。臨床心理士養成課程在籍の院生を始め、資格取得後の専門家にとっても事例に即した有意義なスーパーヴィジョンの場を提供している。今年度は院生・研修生も面接回数は増加している。一般（資格取得後の専門家）は些か減少している。この事業は、研修講座とともに専門家からの信頼を得ており、社会における対人援助専門家の人材育成の役割を担っていると見えよう。

（1）AFC教育・研修講座

a. 対人援助の基礎講座

① 対人援助家のための気功 自分の身体とつきあう（全3回）

日程：2023、1/29、2/12、2/23（日曜日、祝日 15：00～18：00）

会場：ハートピア京都4階 第5会議室

講師：濱野 清志（京都文教大学臨床心理学部教授／臨床心理士）

受講者数：11名（定員20名） 受講料：一般15,000円 AFC会員・学生12,000円

b. 対人援助の専門講座

① 心理臨床における「みたて」の技術

日程：12/25（日曜日 10：00～17：00）

会場：ハートピア京都4階 第5会議室

講師：濱野 清志（京都文教大学臨床心理学部教授／臨床心理士）

受講者：36名（定員35名） 受講料：一般15,000円 AFC会員・学生13,000円

② 発達の視点を味わうーウェクスラー式検査の基礎を学ぼう（全2回）

日程：7/3、9/18（日曜日 13：30～18：30）

会場：ハートピア京都4階 第5会議室

講師：福永 友佳子（パームこどもクリニック・オフィスオータム／臨床心理士）

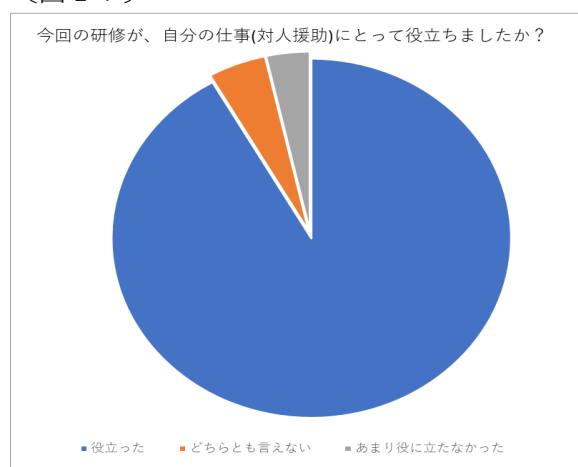
受講者数：19名（定員20名） 受講料：一般30,000円 AFC会員・学生27,000円

- ③ 発達の視点を味わう【事例編】ーウェクスラー式検査の実際ー（全3回）
 日程：(2023)1/15、2/19、3/19(日曜日 13：00～17：00)
 会場：ハートピア京都4階 第5会議室
 講師：福永 友佳子（パームこどもクリニック・オフィスオータム／臨床心理士）
 受講者数：14名（定員20名）受講料：一般30,000円 AFC会員・学生27,000円
- ④ ロールシャッハ・テストー 入門編（全6回）
 日程：7/2、8/6、9/3、10/1、11/12、12/3（土曜日 10：00～13：00）
 会場：葵橋ファミリー・クリニック 研修室
 講師：中尾 文彦（やまと精神医療センター／臨床心理士）
 受講者数：5名（定員10名）受講料：一般35,000円 AFC会員・学生32,000円
- ⑤ ロールシャッハ・テストー 応用編（全3回）
 日程：9/23、12/18 (2023) 1/22（日曜日 13：30～18:30）
 会場：ハートピア京都3階 視聴覚室 4階 第5会議室
 講師：山本 昌輝（立命館大学名誉教授／臨床心理士）
 受講者数：23名（定員20名） 受講料：一般35,000円 AFC会員・学生32,000円
 （各回参加も可能。1回 一般12,000円 AFC会員・学生10,800円）
- ⑥ バウム・テスト基礎講座(全3回)昔話・絵本から見る今の子どものころ＝バウム・テストへの展開＝
 日程：9/25、10/9、(2023) 1/8（日曜日 13：00～16：00）
 会場：ハートピア京都3階 視聴覚室 4階 第5会議室
 講師：青木 健次（京都大学 名誉教授）
 受講者数：24名（定員20名）受講料：一般20,000円 AFC会員・学生19,000円
 （各回参加も可能。1回 一般7,000円 AFC会員・学生6,500円）
- ⑦ ワークショップ形式 グループ・スーパーヴィジョン（全4回）
 開催されず
- ⑧ ソーシャルワーカーのための専門講座
 開催されず

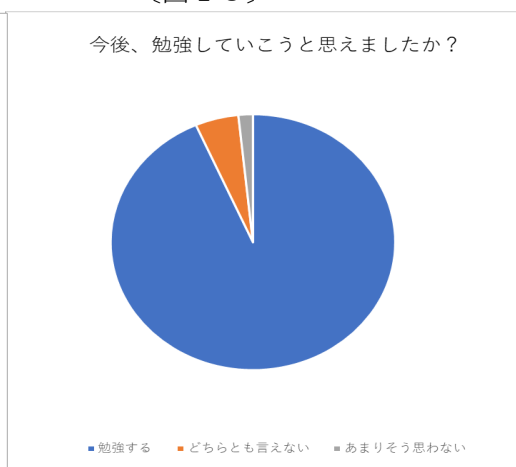
*これらの研修講座の効果については、各講座終了後にアンケートを実施した。
 結果については以下の通りである。

① 研修の有効性

〔図17〕



〔図18〕



②紹介経路

〔表 9〕

	AFCから の案内	臨床心 理士会 案内	知人	その他 の研修	その他	回答数	参加者数	回答率%
気功	7	2	0	0	0	9	12	75%
みたて	13	8	4	4	0	29	35	83%
ウェクスラー基礎	9	2	1	0	0	12	19	63%
ウェクスラー事例	9	2	1	0	0	12	16	75%
ロ・テ入門	2	2	0	0	1	5	5	100%
ロ・テ応用	10	2	1	0	0	13	21	62%
バウム	6	4	1	0	0	10	21	48%
合計	56	22	8	4	1	90	129	70%

c. スーパーヴィジョン・コンサルテーション、教育分析

日程：随時予約制

講師：葵橋ファミリー・クリニック カウンセラー／臨床心理士

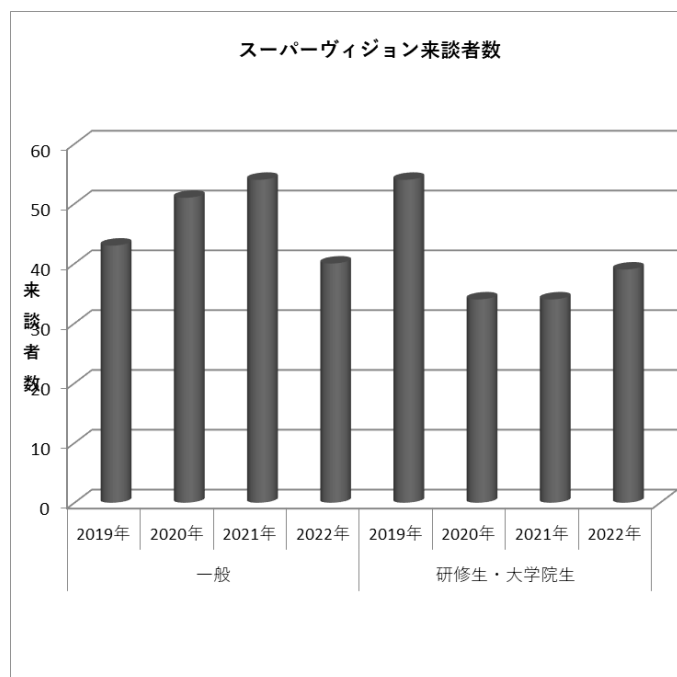
会場：葵橋ファミリー・クリニック 面接室

受講料：初回 8、000 円＋税、継続 6、000 円＋税（1 回 1 時間）

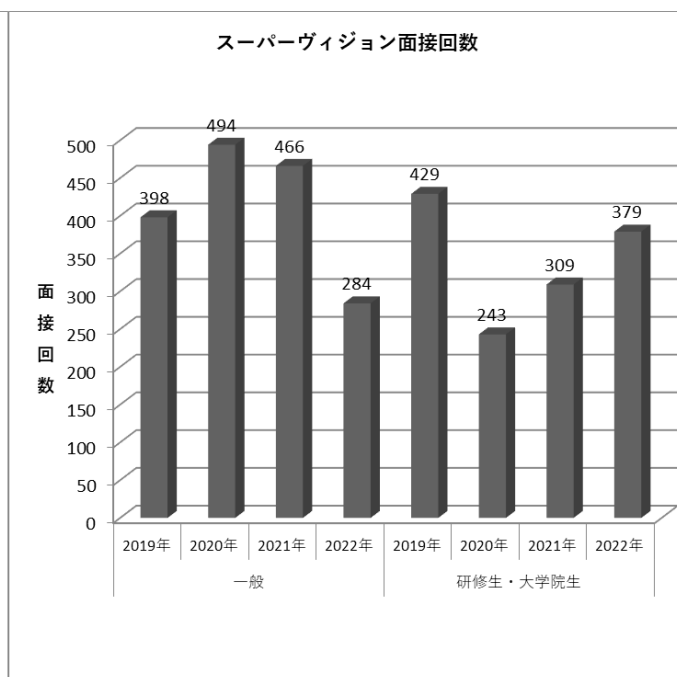
〔表 10〕

スーパーヴィジョン	来談者数				面接回数				教育分析	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年		2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
一般	43	51	54	40	398	494	466	284	一般	6	5	6	6	56	57	41	65
研修生・大学院生	54	34	34	39	429	243	309	379	研修生・大学院生	0	0	1	0	0	0	1	0
合 計	97	85	88	79	827	737	775	663	合 計	6	5	7	6	56	57	42	65

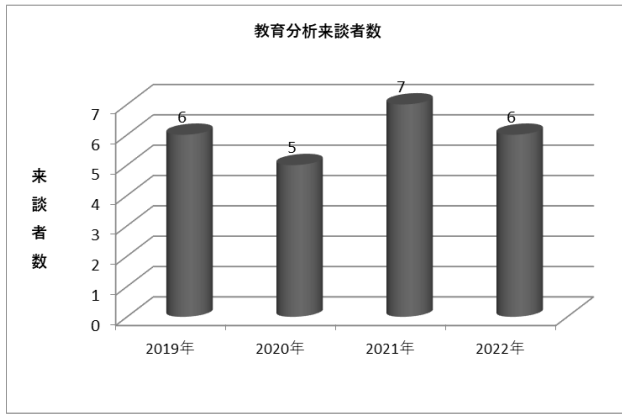
〔図 19〕



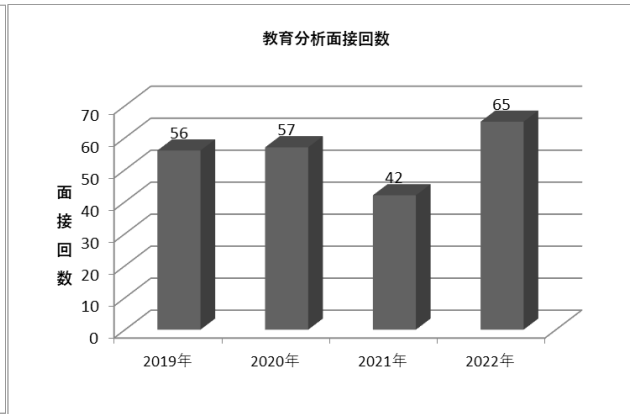
〔図 20〕



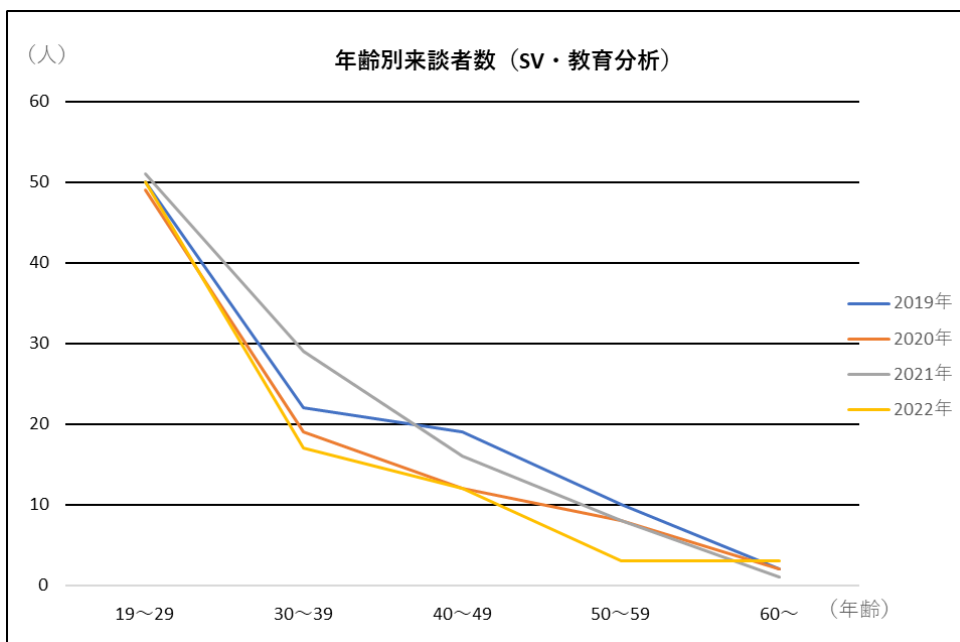
〔図 2 1〕



〔図 2 2〕



〔図 2 3〕



d. 教育講座 講演会

《講演会》「夢分析と占星術」対面・ZOOM 研修会

日程：令和 5 年 3 月 26 日（日曜日 14：00～17：00）

講師：鏡リュウジ（京都文教大学客員教授／心理占星術研究家・翻訳家）

対談者：濱野 清志（京都文教大学臨床心理学部教授）

会場：ハートピア京都 4 階 第 5 会議室

受講者数：対面 28 名（内 AFC 正会員 7 名）ZOOM 20 名（内 AFC 正会員 5 名）

受講料：一般 3,000 円 学生 1,500 円 AFC 正会員 無料

（2）講師派遣事業（各種職場、組織、グループに講師を依頼に応じて随時派遣する）

a. 講師派遣

① 京都市立芸術大学新入生オリエンテーション「キャンパスハラスメントについて」

コロナ禍のため Zoom での撮影

山本陽子

② 花園大学 「ハラスメント相談の受け方」

5/12 卯月路子

③ 京都市子ども支援センター「新規委嘱非常勤嘱託員研修」

4/26 山本陽子

6/28 山本陽子

④ 消防局研修 「ラインケア」

11/4 卯月路子

「セルフケア」

(2023 年) 2/24 卯月路子

- ⑤ 京都大学「ハラスメント研修」 (2023 年) 1/13 山本陽子
1/18 卯月路子
1/24 卯月路子
1/25 山本陽子
- ⑥ 保健師研修 西京区 「ストレスコーピング」 2/3 卯月路子
- ⑦ 保健師研修 上京区 「対人援助職のメンタルヘルス」 2/7 卯月路子
- ⑧ 京都市民間社会福祉施設職員メンタルヘルス研修会 「対人援助職のメンタルヘルス」 (2023 年) 2/9 田中恭介
- ⑨ 被害者支援センター 「被害者支援に携わる人々の課題」 (2023 年) 2/7 山本陽子

【会議】

- 第 7 回ストーリーネットワーク会議 7/1 山本陽子・卯月路子
 - 第 8 回ストーリーネットワーク会議 (2023 年) 3/3 山本陽子・加藤理英
 - 令和 4 年度第 1 回女性つながりサポート事業関係者会議 7/6 山本陽子・山口佐和子
 - 令和 4 年度女性活躍支援ワンストップ拠点推進事業関係者会議 11/7 山本陽子・山口佐和子
 - (2023 年) 2/3 山本陽子・山口佐和子
 - 2/24 山本陽子・加藤理英
 - (2023 年) 3/16 山本陽子・加藤理英
 - (2023 年) 1/16 山本陽子
- 府民環境・厚生常任委員会管内調査

b. 相談員のスーパーヴィジョン、コンサルテーション

各区の子どもはぐくみ室（相談員、地域活動員、職員）、ひとり親家庭支援相談員を対象に、相談事例についてスーパーヴィジョンを行った。

日程：随時予約制

講師：葵橋ファミリー・クリニックカウンセラー／臨床心理士

〔表 1 1〕

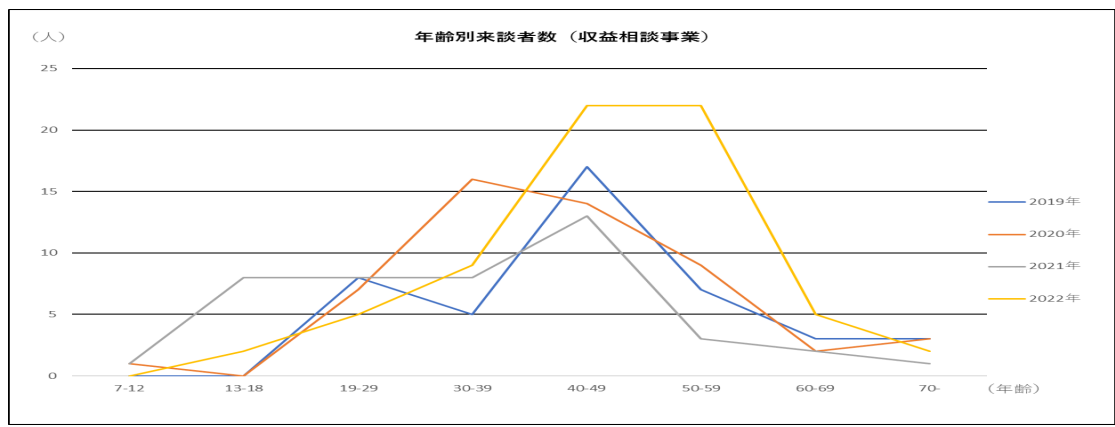
	2019年	2020年	2021年	2022年
来談者数	8	8	12	3
面接回数	6	5	7	3

第 3 収益事業 相談事業

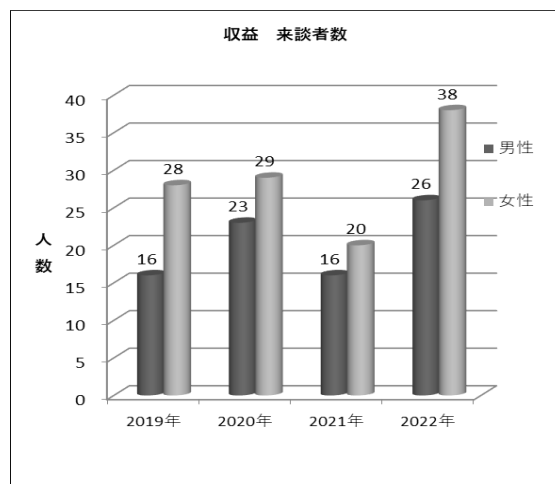
《個人・家族の問題に対応する精神的健康をカウンセリングにより援助する事業》

他機関との連携が必要なく、個人・家族の問題としてカウンセリングが実施された。この事業では、中年期の問題や夫婦・親子関係等の人間関係にまつわる相談内容が多いが、特に今年度は青年期の問題（進路・適性）が倍増している。これはコロナ禍で進路に悩む青年のケースが増えているためである。全体の来談者数や面接回数は大幅に増加している。

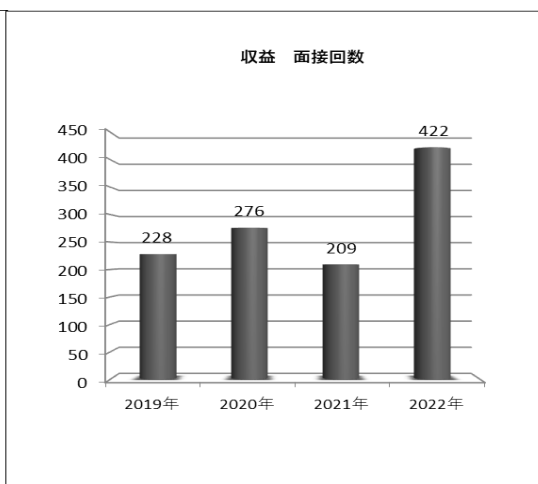
〔図 2 4〕



〔図 2 5〕



〔図 2 6〕



〔表 1 2〕

相談内容内訳	来談者数				面接回数			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
鬱状態、躁状態	2	0	0	0	2	0	0	0
パーソナリティ障害	3	0	0	1	13	0	0	16
不安障害	3	3	4	2	4	7	8	11
PTSD・適応障害	0	0	0	0	0	0	0	0
精神障害者家族への援助	3	1	1	0	7	7	1	0
不登校	0	0	0	2	0	0	0	6
引きこもり	0	2	0	0	0	8	0	0
学校での問題(教師・友人関係等)	1	0	0	1	1	0	0	14
子どもの問題を抱える保護者	5	2	0	10	32	12	0	40
性・心理機能の問題(同性愛・性同一性障害含む)	0	0	1	2	0	0	2	24
行動の障害	0	0	0	1	0	0	0	10
その他精神的症状	0	0	0	1	0	0	0	42
犯罪被害者・被害者家族	0	1	0	0	0	4	0	0
犯罪加害者の再発予防	1	0	0	0	1	0	0	0
DV被害者	0	0	0	1	0	0	0	1
ハラスメント被害者	0	0	2	0	0	0	2	0
ハラスメント関係者	0	0	1	0	0	0	1	0
職場における問題	1	0	1	3	3	0	1	12
青年期の問題(進路・適性など)	2	3	4	1	9	19	43	26
中年期の問題	3	2	1	5	6	12	9	46
老年期の問題	1	2	0	1	5	8	0	15
親子関係の問題	3	4	3	5	33	22	4	8
夫婦関係の問題	8	17	13	18	41	59	57	72
その他の人間関係の問題	5	10	2	6	47	98	72	54
自己覚知	0	2	1	1	0	4	3	4
心理テスト	2	1	1	1	5	3	3	7
その他	1	2	1	2	19	13	3	14
合 計	44	52	36	64	228	276	209	422

第 4 広報

- (1) ホームページ制作、更新
- (2) A F Cパンフレット作成、各種案内等
- (3) 公益法人「A F Cニュース」 第 11 号発行
- (4) 桜鶴岡町の町内地図、新町小学校校区マップに掲載

第 5 学会の参加及び研究発表

- (1) 日本箱庭療法学会
- (2) 日本臨床心理身体運動学会
- (3) 日本心理臨床学会
- (4) 日本ロールシャッハ学会

第 6 A F C体制

- (1) 開所時間： 月・水・金曜日 10：00～20：00 火・木・土曜日 10：00～17：00
- (2) 常勤職員： (首席カウンセラー) 山本陽子、加藤理英 (1 月まで産休)
非常勤職員：(カウンセラー) 橋本朋広 (2 月まで病休) 中島優紀、卯月路子、田中恭介、大橋佳奈、浅田裕子、内田純子、服部美佐子、山北深香、スティーブン・ホフマン
(事務局) 山口佐和子、長尾奈穂

- (3) 会員：今年度末の会員登録者数は正会員 80 名、賛助会員 16 名であった。毎年、退会希望者が若干名あり。また会費未納者もある。
- (4) 事務局連絡会議： 随時
- (5) ケースカンファレンス： 毎月第一土曜日 18：00～20：30

第8 おわりに

公益社団法人に認定され、11 年目の事業は順調に行われた。今年度も「コロナ禍」に見舞われたが、相談事業は公益事業も収益事業も大幅に増加している。精神的な問題を相談できる地域の機関として活動が続けることが重要であると考えられる。研修事業は開催されたすべての講座、参加者は多く、アンケートからも高い評価を受けていることがわかる。どの講座も AFC で継続して開講している講座であり、専門性の高い研修機会を提供できている。今後も公益法人としてより専門性の高い講座を提供し続けていくこと、およびスーパーヴィジョンの場を提供することは、質の高い対人援助職を育成して行くこととして法人に期待されている重要な事業である。公益法人として委託事業は年々増えている。当法人が社会的に評価を得ている結果であると考えられる。

統合的援助機関として、面接事業と専門家の育成という二つを柱として、地域の要請に答えられる公益社団法人として、スタッフ一同さらなる研鑽を積んでいく所存である。

特にファミリー・クリニックとして、家族の課題に対応できる相談機関として機能していきたい。